

研究部会活動報告 政治地理研究部会

世話人:山崎孝史(代表)・高木彰彦・香川雄一・北川眞也・二村太郎

ホームページ:<http://www1.doshisha.ac.jp/~tfutamur/PGRG/bukai.html>

1) 2年間の活動実績

■第1回 2011年12月17日(土) 新大阪丸ビル本館 参加者22名

テーマ:政令市のガバナンスとコミュニティ改革—大阪市と名古屋市との比較から

前田洋介(名古屋大・院) ローカル・ガバナンス及び「地域」の主体としての NPO・ボランティア団体—名古屋市の地域防災を事例に

西部均(大阪市政調査会) 橋下徹氏の「大阪都」に身をゆだねない「市民自治」を求めて

■第2回 2012年3月24日(土) 大学コンソーシアム大阪 参加者9名

前田幸男(大阪経済法科大) アメリカの囚人と兵士生成の政治地理—批判的国際関係論からのアプローチ

■第3回 2012年11月3日(土) 公立学校共済組合奈良宿泊所 春日野荘 発表者の事情により中止

共催:地理思想研究部会

テーマ:地中海境界都市の政治・文化地理

Luiza Bialasiewicz (University of Amsterdam) New Euro-Mediterranean Geographies: Re-mapping Tangiers (地中海ヨーロッパの新しい地理:タンジールの再地図化)

Claudio Minca (Wageningen University) Trieste: Cultural/Political Border Geographies (of Absence)(トリエステ:文化的・政治的な(不在の)境界地理)

第3回に代わる公開研究発表 同日同場所 科学研究費補助金「言語と物質性からみた地理的モダニティの構築に関する地理学史的的研究」研修会として 参加者15名

山崎孝史(大阪市立大) 境界都市研究の視点

■第3回 2012年11月17日(土) 立命館大学衣笠キャンパス(大会部会アワー) 参加者8名

テーマ:選挙の投票行動から見た政治風土

大橋松行(滋賀県立大) 国政選挙と地方選挙に見る滋賀県の政治文化

コメンテーター:高木彰彦(九州大学)

■第4回 2013年3月9日(土) 同志社大学今出川校地烏丸キャンパス 参加者16名

共催:<奄美—沖縄—琉球>研究コンソーシアム京都

テーマ:沖縄脱軍事化への道標

真喜屋美樹(大阪市立大学研究員) 沖縄島内軍事基地跡地の民生転換—中南部都市圏3事例の検証から

コメンテーター:富山一郎(同志社大学)

■第5回 2013年7月20日(土) 滋賀大学大津サテライトプラザ 参加者17名

テーマ:琵琶湖の湖沼流域管理をめぐる環境政治

平山奈央子(金沢大学) 琵琶湖をめぐる湖沼流域管理の変遷

■第6回 2013年8月3日(土) 大学コンソーシアム大阪 参加者 48名

共催:大阪市立大学大学院文学研究科地理学専修、同研究科インターナショナルスクール日常化プログラム

テーマ:地政学・政治地理学を学ぶ

Colin Flint (Utah State University) Learning geopolitics and political geography: How geography matters in politics in this globalizing world

通訳:山崎孝史(大阪市立大学)

■国際地理学連合京都地域会議 2013年8月5日(月)~8日(木) 国立京都国際会館 発表件数 40件

政治地理委員会主催の12セッションに関する企画と運営をローカルホストとして支援

■国際地理学連合政治地理委員会沖縄巡検 2013年8月10日(土)~12日(月) 沖縄県沖縄島 参加者 21名

政治地理委員会主催のポストカンファレンス巡検を企画・運営

共催:沖縄地理学会

協力:沖縄市総務部総務課市史編集担当、金武町教育委員会、ヘリ基地反対協議会、沖縄ツーリストほか

テーマ: Militarization and demilitarization of Okinawa as a geostrategic “keystone” under the Japan-U.S. alliance

■第7回 2013年11月9日(土) 大阪市立大学杉本キャンパス(大会部会アワー) 開催予定

テーマ:地政学・政治地理学を学ぶ(その2)

高木彰彦(九州大) 欧米地政学の最近の展開—フリント著『地政学入門』(仮題)を素材として

2) 活動成果の概要

本部会は、設立申請時に重点的研究・活動領域として、①政治地理学・新地政学の理論的・方法論的フロンティア、②グローバル化時代の都市ガバナンス、③セキュリティ化社会への政治地理学的接近、④政治地理学的研究の国際交流の促進、⑤活動基盤の人的・財政的強化の5領域を設けた。①については中止された第3回に代わる公開研究会での境界都市論、その後開催された第3回研究会での選挙結果から明らかにされる政治風土、第6回研究会での政治地理学・地政学の視角というテーマを通して検討され、②は政令指定都市のコミュニティ政策の変容と大都市圏ガバナンスをテーマとする第1回研究会において議論された。③については米国の刑務所と軍事基地を扱った第2回研究会、沖縄の基地跡地利用を考察した第4回研究会、琵琶湖の環境問題を吟味した第5回研究会で取り上げた。④については、各世話人が2012年にマドリッドで開催された国際政治学会、フランクフルトで開催された国際地理学連合政治地理委員会プレ会議、ケルンで開催された国際地理学連合会議、2013年にロサンゼルスで開催された全米地理学者協会政治地理専門委員会プレ会議およびメイン会議において研究発表を行った。加えて、同年8月京都で開催された国際地理学連合京都地域会議での政治地理委員会主催セッション(12の発表セッションと40件の発表)の企画・運営をローカルホストとして担い、沖縄で実施された会議後巡検を共催組織として実施した。⑤については2012年度と13年度に向けて科学研究費補助金(基盤研究B)の申請を行なったが、採択には至らなかった。各研究会のより詳しい内容と所見は学会誌上の報告を参照されたい。

なお、本部会の活動に関わる研究公開成果として以下がある。

Yamazaki T., Takagi A., Kitagawa S., and Kagawa Y. 2012. Reemerging political geography in Japan. *Japanese*

Journal of Human Geography 64-6, pp. 72-94.

クラウディオ・ミンカ(山崎孝史ほか訳) 2013. 『『トリエステ人』とその非現前の地理』、『空間・社会・地理思想』16、pp. 111-127.

コーリン・フリント(高木彰彦ほか訳) 印刷中 『地政学入門』、原書房

3) 活動成果の評価

2)で指摘したように、本部会は研究資金の獲得には至らなかったものの、概ね設立時に想定した研究課題を扱う研究会を開催できたと考えられる。学会内に初めて設置された政治地理関係の部会ではあったが、各研究会の発表内容の質は高く、著名な外国人研究者の招聘にも取り組み、研究会を通して政治地理学の認知向上には貢献できたと考えられる。また積極的に国際研究組織と交流し、国際地理学連合京都地域会議では政治地理関係の発表セッションや沖縄巡検の開催に中心的に関わり、日本における政治地理学の国際発信にも貢献してきた。加えて、世話人もそれぞれの研究において積極的な成果公開を進めており、新設の部会としては活発な活動を展開できたと考えられる。この延長線上で、二期目の活動が終わる頃に世話人の共著による単行本の出版も検討している。

その一方で、参加者数が10人に満たない研究会も散見され、日程の調整、告知、出席勧奨の方法に改善すべき余地があると考えられる。第6回研究会が関西の大学学部生・院生を中心に50名近い参加者を獲得できたので、そうした点を配慮・工夫することによって、通常は研究会に参加しない階層にも政治地理学に目を向けさせることができると考えられる。また、新設の部会であるため、企画立案段階でスムーズな人選や日程調整ができなかったケースもあり、申請中の第二期目の運営に今期の経験をフィードバックしていきたい。

(文責:山崎孝史)